

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策の名称	313質の高い既成市街地の整備		
施策のねらい (めざす姿)	賑わいと魅力あふれる中心市街地が形成されています。 自然と調和した質の高い居住環境が整備されています。		
基本目標	3「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	施策担当マネージャー	都市建設部次長
政策	31魅力あふれるまちづくりを進めます	マネージャー氏名	貞方 敦雄

I 改革・改善内容(=施策をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	新京成線連続立体交差事業の進捗を見据え、両駅周辺の整備については、関係機関との協議を踏まえた整備を、地域の理解と協力を得ながら計画的に進めていく。	③改革・改善内容	新京成線連続立体交差事業を見据え、北初富駅周辺の整備については、関係機関との協議を実施し、駅前広場の形状や必要な機能について方針決定をする必要がある。また、初富駅周辺の整備については、計画的に推進していく。
②①に基づく取り組み結果	初富駅周辺地区は、駅前広場等の整備に必要な用地測量を実施するとともに、地権者の協力により用地の一部を取得し、事業の進捗を図った。 北初富駅周辺地区は、駅前広場の形状及び機能についての検討や、整備に必要な用地の取得に向けて地権者と交渉を継続した。		

II 施策の目的・概要

①目的	対象	初富駅周辺、北初富駅周辺地区、周辺市街地	意図(対象をどうするのか)	都市基盤の整備により、安全性・利便性・快適性が確保され、中心市街地については賑わいや、住宅地については質の高い居住環境を創造する。
②施策の概要	初富駅や北初富駅周辺地区では、都市基盤の整備により、安全で利便性の高い駅周辺機能を確保する。周辺市街地については、開発行為などにより、質の高い居住環境へ誘導していく。			
③環境分析(状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新京成線連続立体交差事業の完了を見据え、駅周辺の機能の確保等について、計画的に進める必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29～30年度の施策の成果	初富駅地区については、用地測量を実施するとともに、必要な用地の一部を整備した。						
②施策成果指標	指標名称		単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値(2年度)
	i	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	56.3	55.0
	ii	既成市街地整備事業着手地区数	地区	2	2	2	2
	iii						
③基本事業成果指標	i	都市軸形成促進事業整備箇所数	箇所	1	1	1	1
	ii	近隣商業拠点整備事業整備箇所数	箇所	1	1	1	1
	iii	鎌ヶ谷市を住み良いと答えた市民割合(市民意識調査)	%	—	—	56.3	55.0
	iv						
	v						
	vi						
④施策の事業費	平成29年度決算	平成30年度決算	市民一人あたり事業費(30年度決算)	令和元年度予算			
事業費(千円)	10,577	56,922	(単位:円)	520円		52,714	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	初富駅及び北初富駅周辺地区については新京成線連続立体交差事業の完了を見据え、市民の理解や協力を得るとともに、関係機関と協議を行い、駅前広場の整備を進める必要がある。		
②総合評価	1達成	③総合評価の理由	初富駅周辺地区整備については、用地測量の実施や必要な用地を取得し事業が推進した。

V 今後の方向性

①施策の方向性	↑ 拡充
②上記方向性の説明	新京成線連続立体交差事業の完了を見据え、駅周辺の機能確保をすべく、整備を推進していく必要があるため。
③特に重点化する事務事業	都市軸形成促進事業